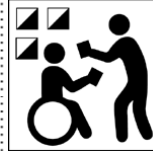


# 東北大 秋の矢板を制す!

2009年11月21日 矢板インカレトレイル大会 (栃木県矢板市)



NPO  
トレイル協会  
こやま たろう

ハンガリーでの WTCO (世界トレイル選手権大会) で 木村治雄がみごとブロンズ・メダルを獲得し、「日本ここにあり」と気を吐いてから2ヶ月余。秋のトレイル・シーズンの幕が上がった。

## 大学対抗の勝者は東か西?

この大会は、来年3月の全日本トレイル選手権大会出場権をかけたシーズン最初の戦いであり参加者は興奮気味、また大学対抗戦でもあるため特に学生諸君の意気込みはいやがうえにも高い。

## 真白の地図、グリーンベスト

コース距離は1.4Km、コントロールは11+2T/Cの、満点ならば13ポイント。

地図はほとんど「真っ白」…というのは、林の中のコースである。車の通る道をはさんで両側にコントロールが点在する折り返しのコースだ。

スタート前にグリーンの蛍光色のベストを着用する。これは通行する車に注意喚起をさせるためのもの。通行車両に対する路上の看板類にかわる良いアイデアだ。



#3 小川、東のふち  
本流と支流の曲がり角がヒント

## スキルを要求するコース

林の中のコースは、コントロール間の移動中も、常に地図と現地のチェックを続けなくてはならず、気が抜けない。

コントロールの特徴物(部)は、土

が多く、したがって等高線読み・トレースなどの基本的かつ重要なトレイルのスキルが要求される所もある。

難易度もさまざまでありよく考えられていた。6番の「開けた土地、東の部分」や、9番の「テラス」、10番の「尾根」や二つのT/Cなどは難度が高かったといえよう。

反面、「Z・正解なし」は、ややトリッキーな面もあったが、相対にやさしく設計されていた。

DPからの遠距離コントロールを設けることが最近の傾向のひとつであるようだが、今回は50m~70m程度と適当であった。コントロール周辺も、かなり良く観察できた。要は学生諸君にも適当なバラエティのあるコースだったといえよう。



#6 開けた土地、南東の部分  
5つのフラッグが直線的に並んでいるだけ。はたして何を手がかりにしてどう解くか…

## さて勝者は

70分の制限時間はまたたく間に過ぎて、競技者達が次々とフィニッシュ。今日の競技者数は、Aクラスに一般25名、学生64名の89名、他にBクラス24。

### ■ Aクラス 学生のTOP3は東北大大学が独占 (特別表彰)。

- 1、吉田 昌弘 (東北大) 13p 61s
- 2、八重樫 集 (東北大) 12p 29s
- 3、戸田 瑛 (東北大) 12p 80s

### ■ 学生団体表彰も東北大が制す。

- 1、東北大 (吉田、八重樫、戸田) 37p 170s
- 2、京都大学 (伴、松矢、宮本) 33p 214s
- 3、東京大学 (山上、古里、岩瀬) 29p 412s



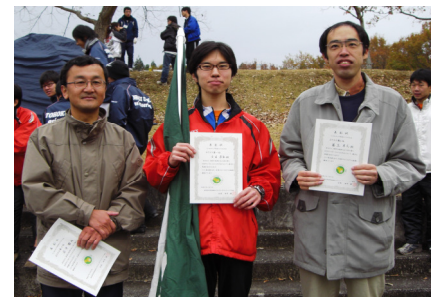
学生団体表彰 校旗を持って誇らしく

## 個人Aクラスも TOPは学生

今回の全日本大会出場権 (E権) を競う個人Aクラス上位3人は

- 1、吉田 昌弘 (東北大) 13p 61s
  - 2、田中 徹 (京葉 OLC) 12p 16s
  - 3、藤生 考志 (東京 OLC) 12p 25s
- (吉田は満点。田中、藤生はわずかなミス、悔やまれることだろう。また、田中はT/C正解者中で最少時間。)

上記3名以外にE権を取得した者は、八重垣 集、高橋 厚、茅野 耕治、戸田 瑛、山口 尚弘、伴 毅、松矢 将太郎の合計10名。



2位：田中 1位：吉田 3位：藤生

## 新コース・セッターのデビュー

今回のコース・セッターは中尾吉男が初めて担当。山口征矢が補佐し、大会コントローラは児玉 拓が務めた。好天のもと、シーズンのさきがけにふさわしい大会であった。(文中敬称略) (こやま たろう)